

令和 3 年 度

第 1 回太宰府市総合教育会議
議事要旨

令和 4 年 2 月 14 日

令和3年度第1回総合教育会議

1 開会及び閉会に関する事項

- | | | |
|---|-----|--|
| 1 | 日 時 | 令和4年2月14日（月）
午後2時00分開会
午後2時50分閉会 |
| 2 | 場 所 | 太宰府市役所 庁議室 |

2 出席者

市 長	楠 田 大 蔵
教 育 長	樋 田 京 子
教 育 委 員	野 中 秀 典
教 育 委 員	武 藤 佳 穂 里
教 育 委 員	桑 野 裕 文
教 育 委 員	日 下 部 寛 行

3 事務局

市 長 部 局：清水副市長、山浦総務部長、佐藤経営企画課長、宮原企画政策係長、尾籠主任主事

教育委員会部局：藤井教育部長、堀教育部理事、添田社会教育課長、山村教務（人権・同和教育担当）係長、立石主任主査

4 議事

- (1) 令和4年度太宰府市教育施策要綱（案）について

5 概要

＜市長あいさつ＞

- ◆ 12月に行われた市長選挙において、本市にとって18年余りぶりとなる無投票で2期目の信任を得ることができた。引き続きコロナ対策に邁進しつつも、令和の都としての取組をさらに進め、太宰府をさらに羽ばたかせるとともに、地方自治体や我が国、世界に共通する課題を先進的に解決する模範都市を目指し、意欲的な市政運営に取り組みたいと思っている。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症については、オミクロン株の世界的な拡大により、本市でも感染者が高止まりしており、予断を許さない状況が続いている。その中で、学校現場や保育園などの学級閉鎖や休園などが相次ぎ、子どもたちこそ様々なしわ寄せを受けている。こうした時こそ、我々大人、そして市長としての私の出番との思いで可能な限りの対策に努める。
- ◆ コロナ禍の中での不安の高まりを反映してか、将来の進路を悲観しての高校生による惨劇や、度重なる虐待による殺人など、子どもたちにまつわる事件が頻発している。こうした状況も鑑み、2期目の新たな取組として、大局に立った教育大綱の改正や中学校給食環境のさらなる改善、観光と文化財行政の融合による価値を生む史跡地への脱皮など、これまで山積している本市の課題の抜本的解決にも積極的にチャレンジしていく。
- ◆ 市長部局、教育委員会双方の連携をさらに緊密化し、本市の教育施策を共に力強く進めていくことが肝要であると考えているので、今後ますますの御理解、御協力をお願いする。

議事（1）令和4年度太宰府市教育施策要綱（案）について

＜教育長説明＞

- ◆ この2年間、コロナ禍で様々な教育関係の事業や学校での教育活動の中止、縮小を余儀なくされ、その間学校においては、徹底した感染防止対策を講じながら、子どもたちの命と学びを守るために、たゆまぬ努力を重ねてきた。また、スポーツ、文化、社会教育関係についても、人数制限や時間短縮など様々な工夫を行ったり、オンラインでの会議や研修といった新しい形態を取り入れるなど、事業の継続に向けた取組を実施してきた。来年度もコロナ対策を念頭に置きながら、6つの基本施策を着実に進めていきたい。
- ◆ 基本施策1「教育委員会活動の充実」について、まずは教育委員会制度の意義を踏まえ、さらなる委員会活動の充実を図っていきたくと考えている。具体的には協議の充実と、効果的な情報発信を進めていきたい。
- ◆ 基本施策2「人権を尊重するまちづくりの推進」について、教育委員会が担うべき重要な役割は人権に関する教育と啓発であるが、参集型研修の実施が難しい状況のため、オンラインやユーチューブなどを活用しながら、人権啓発教育の充実を進めていきたいと考えている。
- ◆ 基本施策3「文化芸術の振興・スポーツの推進」について、来年度は市政施行40周年を迎えるため、感染予防対策をしっかりと講じながら、節目の年にふさわしい事業の実

施、それをきっかけとした市民の文化芸術活動、スポーツ活動の支援に努めていきたいと考えている。

- ◆ 基本施策4「社会教育の推進」について、コロナ感染症拡大に伴い、子どもたちの家庭で過ごす時間が増加しており、改めて家庭教育の重要性が再認識されている。家庭教育支援を充実するとともに、学校・家庭・地域が一体となって子どもを育てる体制整備を図っていききたいと考えている。
- ◆ 基本施策5「学校教育の充実」について、今年度1人1台タブレット端末が配備され、本格的にICTを活用した教育が始まった。来年度は家庭学習での活用も含め、さらに積極的な活用を図っていききたいと考えている。また、増加する不登校児童生徒の支援や特別支援教育の推進、さらには老朽化する学校施設の改修や不足する教室への対応等も、着実に進めていく。
- ◆ 基本施策6「文化遺産の保存と活用」について、地域における文化財の総合的な保存・活用を促進するために、文化財保存活用地域計画を策定する。また、市民や地域と協働して、日本遺産や市民遺産の育成・活用を推進していききたいと考えている。

<質問・意見>

- ◆ 40周年を機に、太宰府市の子どもたち、学生、中高校生や大学生も含めた方の才能を伸ばすような世界に羽ばたく人材育成を考えていきたい。
- ◆ 学校教育の充実の際に、校舎のことなどもあるが、中学校給食の問題を考えていきたい。また、先進的な教育環境の充実はしっかりとやらなければいけないと思っている。
- ◆ 文化遺産について、地域計画など大宰府跡をはじめとした様々な計画を再考し、そこから「梅」プロジェクトのような、価値を生む、経済効果があるような史跡にすることが非常に重要だと考えている。
- ◆ 悲惨な事件が続いているため、何としても本市ではそうしたことが起こらないように、要綱の中でも工夫ができればありがたいと思っている。
- ◆ 昨年コロナ対策として、サポートスタッフの職員を1人ずつ学校に配置するなど、積極的に行ってもらっており、子どもたちが安心して学べる環境のためには、その辺りをしっかりサポートしていくことが大切になってくると考えている。
- ◆ 先生が不足しており、休んだ時に代替の先生が配置されないというようなこともあるため、4月1日付の段階で、太宰府市の小学校・中学校の教員定数が確保され、担任もきちんと決まるような状況になるようにしていただきたい。
- ◆ 太宰府市においては先行的に、小学校1年生、2年生の35人学級を進めている。そのようなことも引き続き令和4年度以降の施策の中に組み入れていただければ、先生たちがゆとりを持って子どもたちと触れ合う時間が確保できる。
- ◆ コロナ禍が続いている中で、学校の先生不足なり、コロナ対応を含めた人員の確保のために、国のコロナ交付金も活用しながら、教育現場をサポートする姿勢は間違いなく持っている。
- ◆ 先生の初任給が低く教員のなり手が少ないという問題があると思う。政令市は独自に設定できるため、福岡市は福岡県より少し高く設定しており、先に福岡市を希望する傾向にある。また、佐賀県は来年度から秋の採用試験を1回追加し、なるべく多くの

先生を確保しようとしているため、福岡県に就職を考えている方が先に佐賀県に就職してしまう可能性もある。県全体、国全体で教員不足に対する問題を考えていかなければならず、このままでは将来的に持続可能な教育ができなくなるほど大きな問題だと考えている。

- ◆ 太宰府市においても、例えば栄養教諭の先生は県の配分枠が決まっているため、不足する学校については市で雇用して配置している。先生を実際に雇用している自治体もあるが、それでも先生自体が不足しているという厳しい状況があり、人材確保に非常に苦慮している。
- ◆ 太宰府市は昨年から、SSW（スクールソーシャルワーカー）の数を3名に増員していただき大変うれしく思っている。SSWの人材確保は筑女の大西先生に御尽力いただいたが、SSWも人材不足の中で大西先生の育てた学生さんたちを本市に紹介していただいているので、非常に良い先生たちが来ていただいている。
- ◆ SSWの仕事内容が多岐にわたっており、子どもたちの心に寄り添うなどにとっても時間がかかっているため、中学校1校に1人ずつであれば4名というのが望ましいとの声を聞く。また、先生とSSWの連携を密に取ることが良い指導につながる。
- ◆ 文化的だったり芸術的な活動を大切にしたり、学びの保障、栄養のある食事、より弱い状況の子どもたちに視点を置くなど、子どもの権利をもっと知っていただき、子どもの人権を守るといふこともしっかり取り組みたいと考えている。
- ◆ 太宰府市は本当に自然が豊かな場所であり、このようところで子どもたちが伸び伸びと教育を受けられるということは、強みになることだと思う。その強みを積極的に取り入れて、学校の先生方がここで教育したいんだと思わせるような市になること、また学校現場の働き方改革をどんどん先に進めることが大事だと思う。
- ◆ コロナ禍の社会は良い面もあれば悪い面も出てきているが、感染する前の社会に戻ることはもう無理だろうと考えている。そのことを教育施策要綱にも、もう少し具体的に触れられないのかなという思いが少しある。
- ◆ コロナ禍の環境に合わせ、人員、設備などの環境改善をしていくことで、その場に行かずとも国内、世界とつながれたり、意見交換ができたりすることが実現している。
- ◆ コロナでGIGAスクールが一步先に進み、児童生徒にタブレットが配付され、国が様々なGIGAスクールの支援体制を予算化したり、スタッフをそろえたりしている。様々な形でのオンライン授業や働き方改革にもつながるが、それを使いこなすための先生方の研修など問題もある。
- ◆ GIGAスクールを40周年とも絡めて考えていきたいと思っており、例えば集まらずとも様々な発表会や作品展示などもできると思っている。
- ◆ 感染拡大はいまだ収束を見ずにその影響を大いに受けることが考えられているが、令和2年度とは感染症に対する理解や対策が大きく異なっており、教育施策要綱では可能な限り社会生活を継続しながらという視点が、様々な施策に反映していると感じている。
- ◆ ICT教育の推進によって、学びの幅が広がり、非認知能力の向上に寄与し、発表の形が変わることによって、子どもたち同士の交流の場に変化が生まれていると非常に感じたが、端末の破損事例が大きく上がっていることや、仕様変更や更新などランニ

ングコストが心配される。また、学校の中で子どもたちがタブレットを使うことによってどのような変化が見られるか、社会全体にどのような影響を与えたかなどの検証が、今後必要になってくるのではないかと考えている。

- ◆ 情報モラルについては、現在、各学校において、発達段階に応じた学びというものが実践されており、低学年においては、他人にされたら嫌なことといった感覚的な学び、高学年になると実際にSNS等による文字が与える印象等を組み込んだ内容で学びが展開されている。これらは幼い頃より感覚として培うことが求められるものであるため、学校だけで完結するものではなく、社会全体で取り組んでいくべき課題であると感じている。そのため、ぜひ市全体で、心の豊かさや、優しさ、思いやりを持てる環境をぜひ醸成してもらいたいと考えている。
- ◆ 郷土への愛着については、令和発祥の都という文言がだいぶ定着し、生涯学習、ふるさと学習を通じて、郷土への理解を深め愛着や誇りを育むことが、これからの太宰府にとって最も重要かと考えている。
- ◆ 市長が冒頭でお話しされたように悲惨な事件が多い。このような事件が起こる背景には、やはり人間関係が希薄になってきていることや、様々なコミュニケーションの形の変化があるかと思う。
- ◆ 子どもたちが力をくれるものもあれば、周囲の大人が子どもたちの力となるという部分も多々あり、子どもたちの健康のためには学校だけでなく、その周りにいる大人の関係、その辺りの様々な世代が活躍できる状況が関わってくると思う。
- ◆ SNSが急速に発展することによって、コミュニケーションが希薄になる部分もあれば、SNSの発信を通じて人とつながっているということ生まれたりして、マイナスもプラスになるし、プラスもマイナスになるような状況が多々ある。
- ◆ 子どもたちの発する手段が少しでも多いことは悪いことではないはずなので、それをうまくキャッチし、その上で何か対応できるかが大事である。